



我国初の西洋式街路・日本大通り。(2023年7月 撮影/米山淳一)

会長就任のご挨拶

公益社団法人横浜歴史資産調査会会長 古賀 学

公益社団法人横浜歴史資産調査会は法人化10周年を迎えることができ、これもひとえに関係各位のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

公益社団法人横浜歴史資産調査会の運営におけるキーワードの一つは、“協働ネットワーク”にあります。今後のさらなる活動基盤の強化においては、理事会と専門委員会の両輪、それを支える社員・会員各位、地域の歴史資産関係者、歴史資産価値の理解者である多くの方々、そして横浜市都市デザイン室を始めとする行政各位等からなる協働ネットワークの形成・強化を図る必要があります。

協働ネットワーク強化における課題の一つとして、“歴史資産の経営”が挙げられます。発掘・整備・保存そして経営といった一連の行為により歴史資産価値の継承が持続可能になります。都橋商店街ビルは、保存・活用・経営という視点を有しており、他の事業推進における実践的モデルであるともいえます。資産満足、顧客満足、経営者満足、地域満足、そして所有者満足をより一層高めていくことにより、地域のシンボルとして不可欠な存在となることが期待されています。

ネットワークには原則があります。それは参加するすべての

人が互いの重要性を認め合い、常に価値観や情報の共有化が図られた全体部分という平等で独立的・自立的なメンバーからなる非階層システムだということです。発掘・整備・保存・経営といった一連の多様な活動においては不可欠なシステムであるといえます。

保存に必要なのは、迅速な動きです。歴史資産の価値は一瞬に消失してまいります。価値観の共有をより早くより多くの方々の中で形成することができるかにかかっています。そのためには、先手先手のネットワークづくりが不可欠であるといえます。調査会におけるシルクロードや鉄道保存の活動はその先鞭といえますが、多様な歴史資産においても多彩な人材による協働ネットワークを確立していくことが必要となっています。

そのためには、公益社団法人横浜歴史資産調査会の活動に関わるより多くの方々のご理解とご協力そして協働が不可欠です。益々多様化する業務の中で、組織本来の方向性を見失うことなく、横浜を核として歴史資産の保存・活用そして価値の向上のための各種事業を推進してまいります。関係各位におかれましてはこれまで以上のお力添えをいただけますようお願い申し上げます。

新たな時代に向かって

米山淳一

公益社団法人横浜歴史資産調査会常務理事

いつも公益社団法人横浜歴史資産調査会（愛称・ヨコハマヘリテージ）の活動には多大なご支援、ご協力を賜り、ありがとうございます。お陰さまで法人化10周年を経て、微力ではございますが、事業を円滑に行っております。

さて、さる6月30日（金）に、2023年度（令和5年）の社員総会を開催し、当公益社団は、明日の歴史を生かしたまちづくりに向けて「新たな体制」を築くことを目的として、組織改革を行うことが決議されました。

その結果、従来の理事会に加え、新たに専門委員を設けることになりました。理事会につきましても新たなメンバーを加え、当公益社団の組織運営や保護資産の保存・活用・運用などを担います。また新たに設けた専門委員は、専門家集団として歴史的資産の現況や保存に向けた調査等を中心に活動を行います。いずれも社員で構成し、力を合わせて歴史を生かしたまちづくりを将来に亘り推進して参ります。

◎任意団体から一般社団法人へ

当公益社団の前身の「横浜市歴史的資産調査会」は、横浜市が「歴史を生かしたまちづくり」に取り組み始めた昭和63年（1988）6月2日（横浜開港の日）に設立されました。歴史を生かしたまちづくりを行うにあたって、「歴史を生かしたまちづくり要綱」、「全員協議会」、そして「横浜市歴史的資産調査会」が三種の神器として用意されたのです。「横浜市歴史的資産調査会」こそが今の公益社団法人横浜歴史資産調査会の原点なのです。

内情は、歴史を生かしたまちづくりを応援するような専門家組織としてスタートしました。委員の人選は、横浜市都市デザイン室の北澤猛さんを中心に行われ、内山哲久（現監事）、米山淳一もその一員でした。

同調査会では、「歴史を生かしたまちづくり」を行うために核となる歴史的資産の登録、認定等に係る調査や市民向けの見学会や講演会、シンポジウムを都市デザイン室と一緒に行ってきました。その活動は広く効力を発揮しましたが、本来は市役所の外部の応援団である「歴史的資産調査会」が都市デザイン室の中にある状態は不自然との声もあり、事務局を「はま銀産業文化振興財団」に担っていただくことになったのです。約15年その形が続きましたが、様々な事情で再び都市デザイン室に事務局が戻ってしまいました。

しばらくして、問題となり結果的に当時の担当係長からNP



都橋商店街ビル

Oにしたいと米山に相談がありました。折しも公益法人改革が目指された時代であり、より格のある公益法人を目指すことになり平成21年4月1日に先ず一般社団法人横浜歴史資産調査会（神奈川県認可）として独立したのです。

しかし、予算も乏しく事務局員が一人、他人の事務所を借りてのスタートでした。石の上にも3年のことわざを信じ、平成25年に内閣府認可の公益社団法人横浜歴史資産調査会としてステップアップしたのです。

◎公益社団法人として資産の保有団体へ

時は流れ、歴史的資産が消えて行くことが続きました。一般社団では力不足。市役所は首長の元、方針が変わり歴史的資産を取得保存するどころではない。そこで、自ら資産を取得できるよう平成25年4月1日、公益社団法人（内閣府認定）として組織変更を行いました。

ちょうどこの頃、日本大通りの三井物産横浜支店の倉庫の取り壊しが現実味を増していました。所有者はケンコーポレーションと言うマンション業者になっており、解体の一点張り。「倉庫を取得したい」と掛け合いましたが、「即金でなければ駄目」と一蹴。辛酸を舐めました。

そこで「歴史を生かしたまちづくりファンド」を開始。さらに解体の危機にあった「都橋商店街ビル」を取得しました。また「モーガン邸の再建」や「旧湘南電鉄瀬戸変電所」（現・京急）の取得保存のための調査と続き、公益社団法人としての役割が明確になりました。とは言っても財政的、組織的にも脆弱で、この強化策が課題。また将来に向けて横浜市内や横浜と

シルクや鉄道と文化的関係が深い市町村や団体との連携を大切に、事業の活性化を図りたく存じます。つきましては、会員の皆様、関係の皆様のご支援や連携がますます必要となります。

どうぞ、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



馬場花木園内の藤本家住宅で市民向セミナーを開催

公益社団法人横浜歴史資産調査会 社員のご紹介

役員

会長／代表理事	古賀 学	松蔭大学教授(観光計画)・神奈川県観光政策審議会会長
副会長／理事	増淵文男	ものづくり大学名誉教授(土木工学)
常務理事・理事	米山淳一	元・財団法人日本ナショナルトラスト事務局長(歴史的環境保全)
理事	青木 治	元・横浜みなと博物館長 ※新任
理事	後藤 治	学校法人工学院大学理事長 ※新任
理事	佐藤彌右衛門	(資)大和川酒造店 会長・会津電力(株)名誉顧問 ※新任
理事	森 まゆみ	作家、谷根千工房代表、元・文化庁文化審議会委員
監事	内山哲久	元・財団法人環境文化研究所調査役(歴史的環境保全)
監事	西脇敏夫	元・横浜市都市デザイン室長(都市デザイナー)
相談役	高橋志保彦	神奈川大学名誉教授(建築史)
相談役	堀 勇良	建築史家(元・文化庁主任文化財調査官)

専門委員

専門委員	内田青蔵	神奈川大学特任教授(日本近代建築史)
専門委員	大野 敏	横浜国立大学大学院教授(日本建築史)
専門委員	小野田 滋	鉄道技術総合研究所担当部長(土木・近代化遺産) ※新任
専門委員	小沢朝江	東海大学教授(日本建築史・近代建築史)
専門委員	黒田泰介	関東学院大学教授(建築計画・レストアウ)
専門委員	関 和明	関東学院大学名誉教授(建築)
専門委員	中藤誠二	関東学院大学教授(土木工学)
専門委員	水沼淑子	関東学院大学名誉教授(建築史)
専門委員	増淵文男	ものづくり大学名誉教授(土木工学)

俣野邸(横浜市認定歴史的建造物)と再建予定のモーガン邸(藤沢市)は至近にあるため、連携した活用を予定



新任のご紹介

青木 治 (あおきおさむ)
元横浜市都市整備局部長



1957年 北海道生まれ。
1982年 長岡技術科学大学大学院工学研究科建設工学専攻修士課程修了。
1982年～2018年 横浜市役所
2018年～2023年 公益財団法人帆船日本丸記念財団理事長兼横浜みなと博物館長
横浜市役所では、土木職として道路・都市整備など主にまちづくり業務に従事し、2013年度は都市整備局企画部長として都市デザイン室の担当部長

後藤 治 (ごとうおさむ)
工学院大学総合研究所教授・理事長



博士(工学)、一級建築士、(専門)日本建築史、歴史的建造物の保存修復

1960年 東京都生まれ。
1984年 東京大学工学部建築学科卒業
1988年 同大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程中退
文化庁文化財保護部建造物課文部技官
1995年 同 文化財調査官
1999年 工学院大学工学部建築都市デザイン学科学助教授
2005年 同 教授
2011年 同 建築学部建築デザイン学科教授・学校法人工学院大学常務理事
2017年 同 建築学部建築デザイン学科教授・学校法人工学院大学理事長
2018年 同 総合研究所教授・学校法人工学院大学理事長
保存・活用に関わる役職多数

●おもな著書

『建築学の基礎6 日本建築史』共立出版、『都市の記憶を失う前に 建築保存待ったなし!』白揚社、共著、『伝統を今のかたちに 都市と地域再生の切り札!』白揚社、共著、『それでも「木密」に住み続けたい! 路地裏で安全に暮らすための防災まちづくりの極意』彰国社、共著、『食と建築土木』LIXIL出版、共著、『論より実践 建築修復学』共立出版 など。

佐藤彌右衛門 (さとうやえもん)
会社・団体役員



1951年 喜多方市生まれ。
1973年 東京農業大学短期大学部醸造学科卒業
合資会社大和川酒造店入社
2005年 同社代表就任と同時に九代目佐藤彌右衛門を襲名
2013年 会津電力を設立し、代表取締役社長に8月1日～就任
合資会社大和川酒造店代表社員 会長
会津電力株式会社 名誉顧問就任
(有)大和川ファーム・プロジェクト会津(株)会長 会津エナジー(株)代表取締役
蔵の会幹事長、会津喜多方商工会議所常議員等

小野田 滋 (おのだしげる)
鉄道総合技術研究所アドバイザー
(専門) 鉄道土木



1957年 豊橋市生まれ。
1979年 日本大学文理学部応用地学科卒業
日本国有鉄道入社
東京第二工務局、鉄道技術研究所、海外鉄道技術協会等を経て、鉄道総合技術研究所勤務
土木史、鉄道史について研究。近代化遺産の調査等にも従事

●おもな著書

『キャンパックス鉄道構造物探見』『東京鉄道遺産』『橋とトンネルー鉄道探読本ー』など。

今年の仕事 公益社団法人横浜歴史資産調査会 令和5年度事業計画

当公益社団の「歴史を生かしたまちづくり」は、人々の生活と共に地域に息づき親しまれ、豊かな景観をもたらして、個性あふれるまちの貴重な資源となっている歴史的資産の調査、保存、活用、普及の4本柱のもとに推進しています。豊かな暮らしを創造する「歴史を生かしたまちづくり」は、地域の人々の継続的な努力によって推進される必要があり、生活の場としての地域の発展の変遷を認識し共有しながら行うことで、地域に活力をもたらし、地域力やシビックプライドの醸成に有効な方策であります。

こうした観点から当公益社団の事業は、将来にわたり、地域の関係の皆さんが一丸となってまちづくりを推進するために必要な事業であるとの認識のもと、以下の基本的考え方に基づいて、引き続き令和5年度事業を実施します。

■ 基本的考え方

歴史的資産を将来にわたり保全していくことは容易なことではありません。このため、日頃から歴史的景観形成に必要な歴史的建造物を失わないため、歴史的遺産の保全と活用に関する調査研究、取得・保存、修理・復原、維持・管理等の事業や、歴史的資産に関する人材育成及び普及啓発活動を実施する計画や提案等を実施いたします。

さらに、「歴史を生かしたまちづくり」を推進するためには、市民の理解や支援を得るとともに積極的に取り組むことができる人材を確保することが重要となっています。このため、「歴史を生かしたまちづくり」に関するセミナー、シンポジウム、見学会等を開催し、「歴史を生かしたまちづくり」を積極的にを行います。

(1) 調査事業

歴史的資産（神社・寺院、古民家、近代建築、西洋館、近代和風建築、土木産業遺構、歴史的地区など）の保全と活用に関する調査研究事業を行います。事業には横浜市からの負担金事業委託された事業と当会の自主事業があります。



横浜市認定歴史的建造物・山手133番館

〈横浜市都市整備局からの負担金事業〉

① 横浜市との協定書に基づく建造物保全・活用計画関連調査
歴史的建造物を保全、活用するため、横浜市都市整備局との協定書に基づく調査事業として歴史的建造物保全活用計画関連の調査等を実施します。

この調査は、所有者へのヒアリング、歴史的建造物に関する文献調査、写真撮影、現地確認、地図へプロットする方法等により実施し、調査によって得られた知見を当公益社団の公益目的事業である「歴史を生かしたまちづくり」の内容検討に活用するとともに、具体的な歴史的建造物の保全・活用における方針の策定や横浜市登録、認定歴史的建造物に向けた課題を整理し、所見の作成等を行います。

また、野毛都橋商店街ビルの将来に亘る保護、管理計画調査を行います。

〈自主事業〉

① 建築家J.H.モーガン自邸の再建に向けた調査（藤沢市）

火災により焼失した建築家J.H.モーガンの自邸の再建を目的に、令和3年度に当公益社団に設置した「旧モーガン邸再建委員会」を中心として、NPO法人旧モーガン邸を守る会・藤沢市等と連携し、「復元再生調査報告書〔平成29年度実施〕」に基づいて再建に向けた具体的な調査等を継続いたします。合わせてモーガン邸再建委員会やワーキング会議を引き続き開催します。

② 山手地区西洋館群等の保存対策調査（横浜市）

横浜山手地区の西洋館群を核とした歴史的風致は、横浜を代表する貴重な歴史的資産です。横浜市が7軒の西洋館を所有し、保存活用を行っていますが、個人が所有する西洋館に関しては、十分な保存対策が取られていないのが現状です。

過去に横浜市は、昭和59年度、60年度に文化庁の補助を受けて、伝統的建造物群保存対策調査を行い、また平成23年度～25年度には当公益社団が文化庁の補助を受けて伝統的建造物群保存に向けた見直し調査を行っています。しかし、未だに具体的な保存対策は確立されていません。

今後、将来にわたる山手西洋館等の保存、活用を目指す上で、令和3年度に山手市民、専門家等との懇談会を当公益社団が開催しました。令和5年度も山手地区の保全に向けた体制づくりを行い、保存活用のための枠組みを設けるためヒヤリング等の調査を行います。

例えば、歴史を生かしたまちづくり要綱（横浜市）、伝統的建造物群保存制度（文化庁）、歴史的風致維持向上事業（国交省、農水省、文化庁）等の効力の検証も行います。さらに建物の修理や修景、相続税など所有者を取り巻く多くの問題や課題を整理し、対策の検討を行います。

*参考：開港都市の函館市（元町、末広町）、神戸市（北野町山本通り）、長崎市（東山手、南山手）は、既に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

③「歴史を生かしたまちづくり相談室」対象調査

◎西教寺の文化財指定や認定に向けた調査

(横浜市南区三春台)

西教寺本堂は、昭和6年建造の鉄筋コンクリート造の市内では稀な建物です。「歴史を生かしたまちづくり相談室」の案件として取り上げ、現況調査や文献調査等を行い対応して来ましたが、今後、横浜市指定文化財への可能性に向けた調査や助言を積極的に行います。

◎旧倉石忠雄家住宅の現況調査

(長野県千曲市稲荷山・重要伝統的建造物群保存地区)

稲荷山地区は、信州の絹文化の交流拠点としてまた、横浜と生糸交易で繁栄しました。現在でも約650mに及ぶ歴史的町並みには、反物や生糸関連の土蔵造り商家が軒を連ね、当時の賑わいを偲ぶことができます。「旧倉石忠雄家旧宅」は、生糸商として知られ労働大臣や農林大臣を歴任された倉石忠雄氏の生家で伝統的建造物に指定されています。地元の千曲市文化財センターや稲荷山の町並みを守る会等と力を合わせて国指定重要文化財を目指し、合わせて復元や活用に向けた建物や文献の調査を継続します。

◎横浜焼き・井上良斎窯場の保全対策調査

(横浜市南区南永田)

近代横浜の陶磁器産業として眞葛焼きと並び発展したのが横浜焼きです。現在、登り窯や作業場、住居が当時のまま残り、所有者により保存されています。当地は湧水が豊富で、その地形を利用した自然観察の場としても活用されています。将来にわたり、歴史的陶磁器産業の場と谷戸の自然地を併せ持った地域資産として保全する方策等を市民、行政、専門家、当公益社団で行います。

◎Y家住宅の現況調査(横浜市磯子区滝頭)

磯子区滝頭に残る近代和風住宅(昭和5年)で、親子二代に亘って住み続けるための方策や地域の文化交流拠点としての可能性を探ります。所有者の意向を確認し、国の登録有形文化財や横浜市登録や認定歴史的建造物に向けた可能性を整理します。



Y家住宅



鉄筋コンクリート造の西教寺



明治期の横浜焼・井上良斎窯



保存問題でゆれる旧長濱検疫所一号停留所

◎旧長濱検疫所一号停留所の保存に向けた市民活動調査 (横浜市金沢区長浜)

旧長濱検疫所一号停留所は、大正期に再建された歴史的建造物で国の登録有形文化財です。所有は厚生労働省ですが、近くの金沢区内の公園への移築計画があります。この建物の保存に向けた方策を市民団体の考えを尊重しつつ方向性を見出します。

(2) 保護事業

歴史的資産の調査結果に基づき、保護事業を行います。保全が必要とされる歴史的建造物等には支援体制を整えま

す。さらに保護事業対象として位置付けて選定し、保存、活用を目的に取得、修理、管理等の取り組みを積極的に行います。

〈自主事業〉

①「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理

当公益団体の保護資産第1号である「野毛都橋商店街ビル」の保全・管理を行います。横浜市都市デザイン室と力を合わせ、将来に亘る保全・管理計画を策定します。

②「旧湘南電鉄瀬戸変電所」の保存・活用

湘南電気鉄道創業時(昭和5年)の歴史的建造物を京浜急行電鉄(株)から建物の寄贈を受けて保存、活用するために行った耐震・地盤調査(平成29年度・平成30年度)の結果に基づき、京浜急行電鉄、横浜市等と保存に向けた協議を重ねます。

今年度は、令和2年度、令和3年度に行った建物の耐震補強や修理計画、さらに令和3年度に行った事業化の検証を基に保存、活用、管理に関する実践的な仕組みを確立します。このために令和元年度に当公益団体が設置した「旧湘南電鉄瀬戸変電所保存活用委員会」を引き続き開催します。また、新たな保全管理、活用の方策を策定します。

③ 建築家J.H.モーガン自邸(藤沢市)の 再建・保存・活用事業の推進

火災で焼失したJ.H.モーガンの自邸を復元再生調査報告書(平成29年度実施)に基づき、再建事業を推進します。公益財団法人日本ナショナルトラストから焼失した建物と敷地約2,000坪の内の約3分の1の土地の譲渡を受け、NPO法人旧モーガン邸を守る会、藤沢市、藤沢商工会議所等と力を合わ



瀬戸変電所内観。当時のガイシやバラ窓が目を引く

せて再建と活用に向けた資金確保のための募金活動をより推進します。

また、この目的達成のための再建委員会を開催し、具体的な再建計画や活用、管理計画を作成します。併せて長年、管



モーガン邸復元予想図



理、公開等を行っているNPO法人旧モーガン邸を守る会と敷地の3分の2を所有する藤沢市との連携を強化します。

また、優れたアイアンワークを誇る中門の国登録有形文化財の登録に向け、文化庁、神奈川県、藤沢市の指導の元、実現に向けて実務を推進します。

(3) 普及啓発事業

歴史的資産に関する専門家の育成やまちづくりに関する市民の理解を深めるために横浜市都市整備局からの負担金事業として実施します。また公益財団法人横浜市緑の協会から、同財団が管理、公開する俣野別邸や山手西洋館他の活用アドバイス等に関する事業を受託して実施します。

〈受託等事業〉

- ① 横浜市都市整備局からの協定書に基づく負担金事業
・「歴史を生かしたまちづくりセミナー」を開催します。
- ② 公益財団法人横浜市緑の協会からの受託事業
・俣野別邸、旧伊藤博文金沢別邸等の職員向け研修セミナーを実施します。
・俣野別邸、山手西洋館馬場花木園藤本邸において、市民向けの歴史講座やコンサート等を開催します。

〈自主事業〉

- ① コンサート in ヘリテージ「ピアノが案内する横浜の歴史とまち Vol.9」の開催
「横浜山手芸術祭」の一環としてピアノコンサートを山手西洋館で開催します。*感染症の拡大により3年間延期

- ② 「シルクロード・ネットワーク・横浜市フォーラム2023」の開催支援

シルクロードネットワーク協議会の代表幹事団体として、シルク産業で横浜に繁栄をもたらした関東甲信越、東北各地等の市町村と連携して発足した同協議会。これまで関連市町村で絹文化の啓発や関連する歴史的建造物等の保全、活用をテーマにNPO法人街・建築・文化再生集団(略称RAC)等と連携し、開催してきました。

2023年度は原点に戻り、第1回目を開催した横浜市内で開催します。「シルクロードネットワーク・横浜市フォーラム2023」(総会、講演会、シンポジウム、見学会等)の支援をおこないます。(横浜市、新庄市、福島市、鶴岡市、南砺市、神戸市での開催に続き、横浜市内で7回目の開催)

- ③ 「日本鉄道保存協会筑西市大会の開催支援」

日本鉄道保存協会の代表幹事団体として、近代化遺産である鉄道遺産(歴史的車両、施設、構造物等)を保存している自治体、鉄道事業者、NPO等の団体等と連携して「ザ・ヒロサワ・シティ」(茨城県筑西市)で開催する同協会の2023年度総会、講演会、シンポジウム、見学会等の開催を支援します。

- ④ 全国近代化遺産活用連絡協議会(文化庁)との連携

我が国の近代化に貢献した産業、交通、土木遺産の保存活用を目指して活動する同協議会と連携し、近代化遺産の保存活動運動を推進します。



KIIITO(神戸デザインクリエイティブセンター)



2022年9月の日本鉄道保存協会見学会(京急ミュージアム)

(4) 会員事業

当公益団体の事業への継続的な支援を確保するために、ヨコハマヘリテージ・サポートクラブ会員の募集と併せて、幅広く会員ボランティアによる活動や見学会等を推進します。

〈自主事業〉

- ① 会報誌『ヨコハマヘリテージスタイル』を年4回発行します。
- ② ホームページを充実します。

(5) 「歴史を生かしたまちづくり相談室」の運営

横浜市内や神奈川県内等には多くの歴史的建造物等の歴史的資産が数多く存在しています。時代と共に取り壊される運命にある対象も年々増えています。しかし、これらの歴史的建造物は、一度壊してしまうと元には戻せません。また、歴史的建造物の老朽化、居住性の低下、修理費、固定資産税や相続税等などが障害となり、保全・活用を行いたくても出来ないで悩んでいる方が多くおられます。

そこで、様々な相談に対応し、瞬時に調査、保全の提案、修理、住まい手紹介、取得等の有効な手当を行うことが必要とされていることから、平成26年に「歴史を生かしたまちづくり相談室」を開設しました。この相談室は、将来にわたる「歴史を生かしたまちづくり」に大切な、歴史・文化資源を確保することを目的として運営に力を注いできました。速攻で現地に向き、相談に応える体制を続けてまいります。



シルクロード・ネットワーク 横浜フォーラム2023開催予告

本年2月、コロナ感染症拡大防止の影響で3年間延期になっていた「シルクロード・ネットワーク」のフォーラムを神戸で開催しましたが、今年度、第7回目になるフォーラムは、第1回の開催地でもある横浜市で開催を予定しています。詳細が決まり次第お知らせいたします。多くのおみなさまのご参加をお待ちしています。



史跡・英一番館の跡

日本鉄道保存協会 2023年度総会・見学会 11月10日(金)・11日(土)

場所：ザ・ヒロサワ・シティ(茨城県筑西市)

ザ・ヒロサワ・シティは、東京ドーム約22個分の広大な敷地をもつレジャーランド。その一角に「陸」「海」「空」「宇宙」の乗り物テーマパークの建設が進められています。

オープンにさきがけ、2023年度の総会、見学会を開催させていただきます。詳細につきましては、9月上旬頃にお知らせ発定予定です。ぜひ日程をあけておいて下さい。



E2系、D51、北斗星の屋外展示



科博廣澤航空博物館内、YS-11

受付中!

■ 歴史を生かしたまちづくり相談室

老朽化、修理費、固定資産税、相続税など歴史的建造物に係るご相談を付けています。ご相談は、ヨコハマヘリテイジ事務局まで。
TEL・FAX 045-651-1730 E-MAIL yh-info@yokohama-heritage.or.jp

■ 歴史を生かしたまちづくりファンド

歴史的資産の保存活動推進のためにファンドを創設し、みなさまに寄付をお願いしています。寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。当公益社団への寄付は、特定公益増進法人として税法上の優遇措置が適用されます。詳しくは事務局でご説明させていただきます。

■『ヨコハマヘリテイジスタイル 2023年夏号』 ■発行/2023年8月 公益社団法人横浜歴史資産調査会
■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405
TEL・FAX/045-651-1730 E-MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp
ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp/>

旧モーガン邸再建のため ご寄付のお願い

再建にあたり当公益社団では、再建委員会(委員長水沼淑子)を開催。再建計画、事業計画等をまとめ事業を推進中です。再建費用は、日本ナショナルトラストから引き継いだ火災保険金の一部と皆様のご寄付で賄います。目標額は1億円。現在、たくさんのご寄付を賜りつつあります。引き続き皆様のご寄付を心よりお願いいたします。
(常務理事 米山淳一)

個人=5,000円(一口)・団体・企業等=100,000円(一口)

振込先：ゆうちょ銀行 口座番号：00270-4-124271
加入者名：公益社団法人 横浜歴史資産調査会
※モーガン邸寄付と明記をお願いします。

ご寄付をくださったみなさま。ありがとうございました。

(敬称略、2023年3月16日～7月20日現在)

鈴木伸治	5,000円	水室敦子	5,000円	大久保洋子	10,000円
関 和明	5,000円	衆山直子	10,000円	松尾剛史	10,000円
花形美登利	10,000円	轉 恵子	5,000円	藤川昌樹	5,000円
水沼淑子	30,000円	勅使川原祐実	5,000円	島田浩和	5,000円
馬場章子	1,000,000円	渡辺一男	10,000円	菅 孝能	10,000円
小林守利	5,000円	山崎哲也	2,000円	石黒 充	10,000円
笠井三義	5,000円	木阪尚志	5,000円	恵良隆二	5,000円
徳重淳子	10,000円	大原竜太	10,000円	関 和明	5,000円
小川文雄	5,000円	関 和明	5,000円		
竹井尚弘	5,000円	安川千秋	5,000円		